

職員による自己評価

A環境面

- 狭さを感じることもあるが、概ね適正化と思う。
- 障害特性で様々な活動を提供する中で、複数の部屋があると良い。
- 室内で走っている児童同士がぶつかりそうになることがあったので、もう少し広い方がいい。

B児童への支援内容

- アセスメントを適切に行い、支援に反映することができている。
- 室内活動の充実を図ったほうが良い。
- コロナ渦ではあったが、電車での外出や、イベントへの参加などができなかった。コロナ渦でも安全に参加できるイベントを企画したい。
- 適時公園遊びや近隣散策などで体を動かすプログラムを提供している。

C関係機関との連携

- ケースにより連携を取れているケースと、連携が取れていないケースで別れる。
- 全体的に連携不足と感じている。

D保護者への説明責任・信頼関係

- コロナ渦の為、対面での面談の機会は少なくなかったが、電話面談や家庭訪問等で補った。
- 年に二回の面談だけでなく、必要に応じた面談や家庭訪問を増やしたい。

E非常対応

- 定期的に避難訓練を行っている。

保護者による評価

A環境面

- 概ね満足されている意見が多くありましたが、スペースが満足ではないといった意見もありました。
- ちゃぶ台の足が斜めになっているので買い換えてほしい。

B児童への支援内容

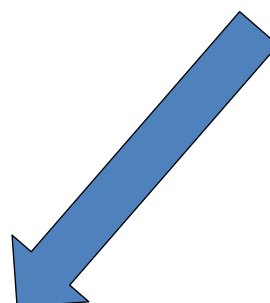
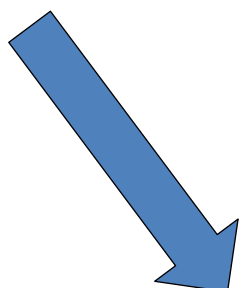
- 支援内容については概ね満足していただけている結果が出ましたが、別紙自由意見欄には「体を動かす機会を増やしてほしい」「悪天候の時なども発散できる場が欲しい」という意見が多くありました。
- また将来を見据えて、恵和内の生活介護事業所の体験や見学を希望される方や、恵和以外の事業所(喫茶店やパン屋さん)に買い物に行くプログラムがあったらいい。といった意見をいただきました。
- プールの実施回数を増やしてほしい。
- コロナ渦の為仕方がないが、落ち着いたら社会資源を利用する活動を増やしてほしい。

C事業所からの情報発信

- 送迎時に様子を伝えていただける。
- ピースだよりで活動中の写真が見れるので、ありがたい。
- 活動中の写真を見たい。
- 送迎時の引継ぎの際、その日見ていなかった職員が添乗だとその日の様子が分からない時がある。

D非常対応

- 避難訓練をしっかりしてくれている。



事業所内での分析

【共通点】

- 訓練室のスペースが適切である。
- アセスメントを丁寧に行えている。
- 支援計画に基づき支援を行えている。
- 地域の子どもとの交流がない。

【相違点】

十分に体を動かすプログラムを提供できている自己評価ですが、保護者の評価では体を動かす機会を増やしてほしい意見がありました。相違点になってしまった原因としては、上にもある通り職員同士の連携が不十分な事から当日の様子をお伝え出来ていない事や、室内での課題に取り組むために外活動を行わなかった事が原因と考えられます。

分析・検討してみた…

事業所の強み

- 丁寧にアセスメントを行い、支援計画を作成している。
- 保護者との連携がはかれている。
- 身体を動かすプログラム、食事支援、社会性獲得のための支援、障害特性に応じた細かな支援を行えている。

事業所の改善点

- 通常日課での職員間の引継ぎ。
- 活動中の写真などを保護者が観覧できるようにする。
- 室内活動の充実を図る。
- チームアプローチ、支援立案などにパート職員も参加できるようにしていく。

事業所の改善への取り組み

- パート職員も参加できる時間帯に職員会議を設けて、支援の目的の共有や活動の立案をする機会を設ける。
- 日々の業務の中で引継ぎを行っていく中で、引継ぎを受けるだけでなく、自分から聞ける職員の育成を行う。

事業所名 _____ ピース和田町

担当者 所長 原 駿介